

飯島敏宏さん

(演出家・プロデューサー・脚本家)

テレビドラマ黄金期の舞台裏(下)

テレビ離れを指摘する声が多いが、子供から大人まで、夢中になってテレビを見た時代があった。当時、番組はどう作られていたのか？

ウルトラマンのエピソード

——「ウルトラマン」は不安の中でスタートしたとのことでしたね。

非常に曖昧な形でクラシク・インしましたから、番組が出来上がるまでに不安もあったんです。手抜きとは言いませんが、手探りという思いが強かったです。

放送スタート直前の一九六六(昭和四十二年)六月二十五日に札幌市自治会館ホールで、「ウルトラマン」を子供たちに見てもらったんですよ(放送開始は七月十

ですね。深海怪獣のグビラ(*1)はデザインを見て、「魚みたいで本気かよ?」と思ったんです(笑)。実際、グビラはあんまり動けないのですが、意外に人気がありましたね。

ネロンガ(*2)のロケ地は現在の小田急線新百合ヶ丘駅の近くです。いまはビルが建っていますが、当時は変電所があり、そこで撮影したんです。ネロンガ



●いじま・としひろ 1932年生まれ。57年KRT(現・TBS)入社。ディレクター、プロデューサーとして『泣いてたまるか』『金曜日の妻たちへ』『思えば遠くへ来たもんだ』などのヒット作品に関わる。『ウルトラQ』『ウルトラマン』『ウルトラセブン』などウルトラシリーズの監督も務めた。写真はウルトラマンと「打ち合わせ中」の飯島さん

七日)。第一話「ウルトラ作戦第一号」と第二話「侵略者を撃て」を一六ミリ映写機で上映しました。会場は大きなホールで、子供たちが一杯いましたね。上映前に金城哲夫さんが、「ウルトラマン」の主題歌の歌唱指導をしていました。彼は、音楽教育を重視する玉川学園出身なので、歌唱指導がうまい。子供たちは一生懸命歌っていました。第二話の上映が始まったとき、自然に大合唱になったんです。とても安堵したことを覚えています。

——手がけた怪獣の中で印象深い存在はありますか？
たくさんさんの怪獣を手がけましたが、どれもかわいい

が電気を吸い込む場面です。ネロンガは「ウルトラQ」に登場したバゴスのぬいぐるみを変形して使いました。

——「セブン暗殺計画」はいまでも一級の娯楽作品として評価も高いですね。

「ウルトラセブン」は、僕はやる予定はなかったんです。このころは時代劇演出のため京都にいましたからね。監督したのは、「勇気ある戦い」(第三十八話。怪獣はクレージーゴン)、「セブン暗殺計画」(第三十九話・四十話。怪獣はガッツ星人(*3))だけです。

「ウルトラマン」は小学校低学年を対象とし、「ウルトラセブン」は、それより少し上の年齢を対象にしましたが、「セブン」の視聴率が期待したほど伸びなかつたようです。「セブン」の企画意図はあまり

*1 グビラ 第24話「海底科学基地」(監督=飯島敏宏)に登場。海底資源の開発目的である海底センターのパイプラインをグビラが破壊する。黄色い肌にもだらの黒い点、鼻先にはドリルがついている。
*2 ネロンガ 第3話「科特隊出撃せよ」(監督=飯島敏宏)に登場。古井戸の底で生き延びて、建設された水力発電所の地下ケーブルから電気をエネルギーにして巨大化した。
*3 ガッツ星人 無敵のガッツ星人と自称する宇宙の実力者。ウルトラセブンを徹底的に分析して敗北させ、十字架へ磔(はりつけ)にして地球人の目の前で処刑しようと目論む。脚本も演出も練られ、一級の娯楽作品として評価が高い。